

「プラズマ乳酸菌」によるインフルエンザ罹患率の抑制を確認

【調査方法】

2015年1月16日（金）から3月18日（水）まで、岩手県雫石町の小中学校に通う児童生徒に毎週月、水、金曜日の週3回プラズマ乳酸菌含有ヨーグルトを配布しました。そして、児童生徒数およびインフルエンザ罹患患者数を町教育委員会の協力を得て把握し、雫石町およびA町のインフルエンザ最大罹患率および累積罹患率を比較しました。

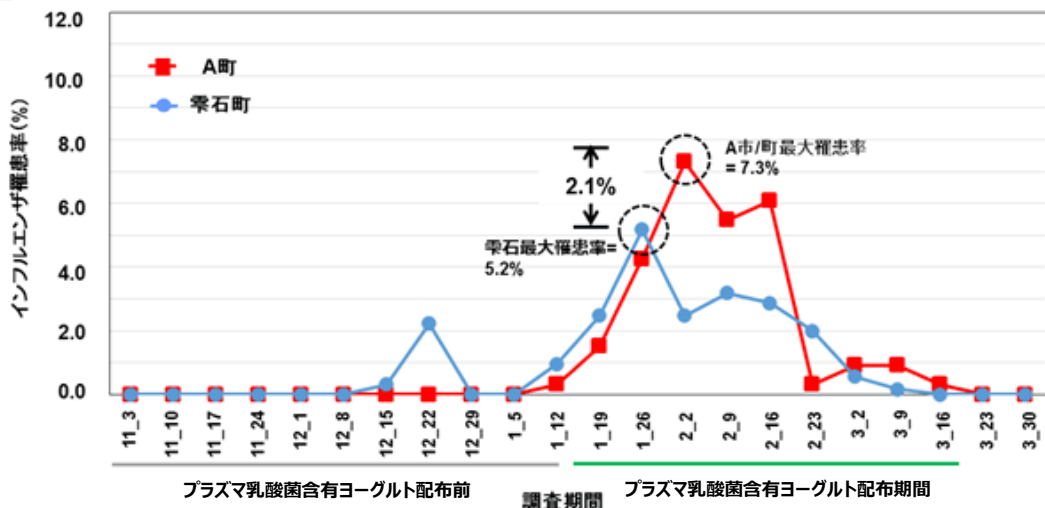
【調査結果】

雫石町とA町との結果から、プラズマ乳酸菌含有ヨーグルトの週3回の摂取は、インフルエンザの最大罹患率を約3割抑え、累積罹患率も2割から3割程度抑えられることが分かりました。

岩手県雫石町と隣接するA町での「プラズマ乳酸菌」摂取によるインフルエンザ罹患率の調査結果について

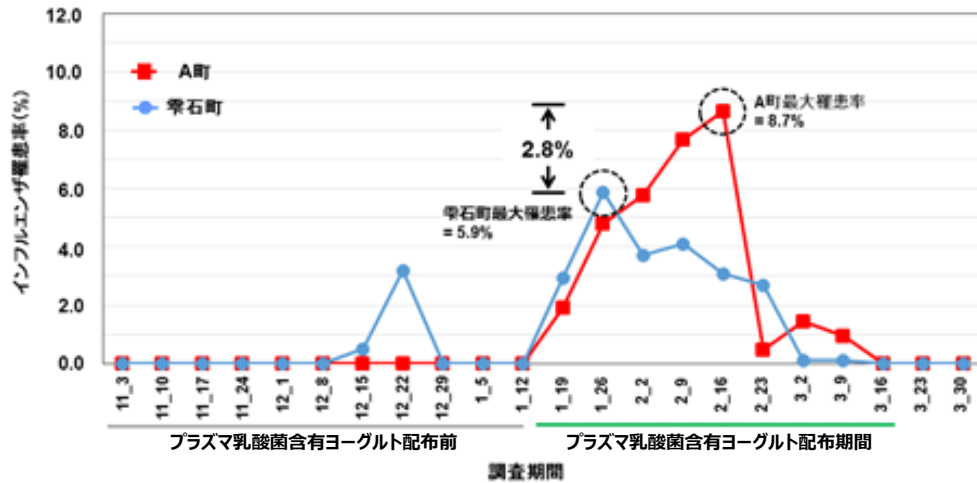
	小中学生		小学生		中学生	
	最大罹患率	累積罹患率	最大罹患率	累積罹患率	最大罹患率	累積罹患率
岩手県雫石町	5.2% (1,255名)	19.8%	5.9% (780名)	22.7%	4.0% (475名)	15.2%
A町	7.3% (329名)	27.4%	8.7% (208名)	31.7%	9.9% (121名)	19.8%
差	2.1%	7.6%	2.8%	9.0%	5.9%	4.6%

小中学生の週別インフルエンザ罹患率の推移(2014~2015年)



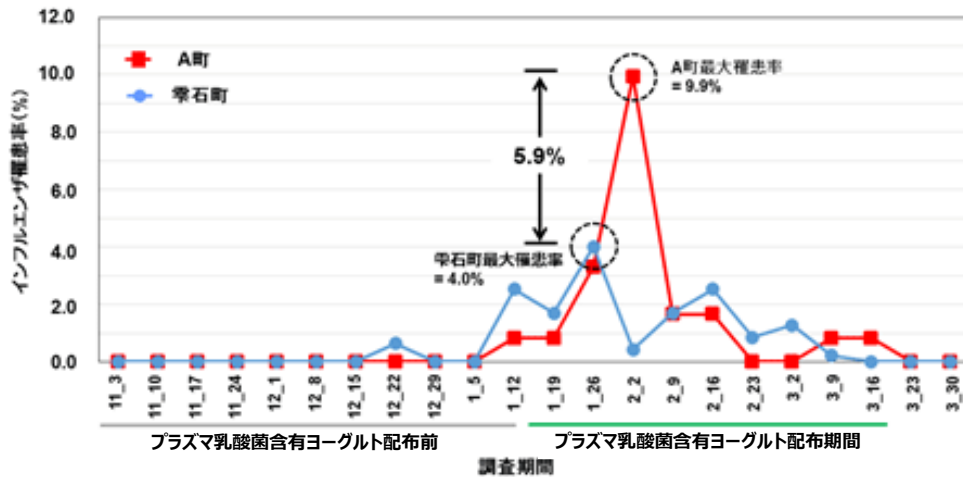
飲用期間においてA町の最大罹患率は7.3%に対し、雫石町では5.2%と2.1%低値で、3分の1程度低値であった。

小学生の週別インフルエンザ罹患率の推移(2014~2015年)



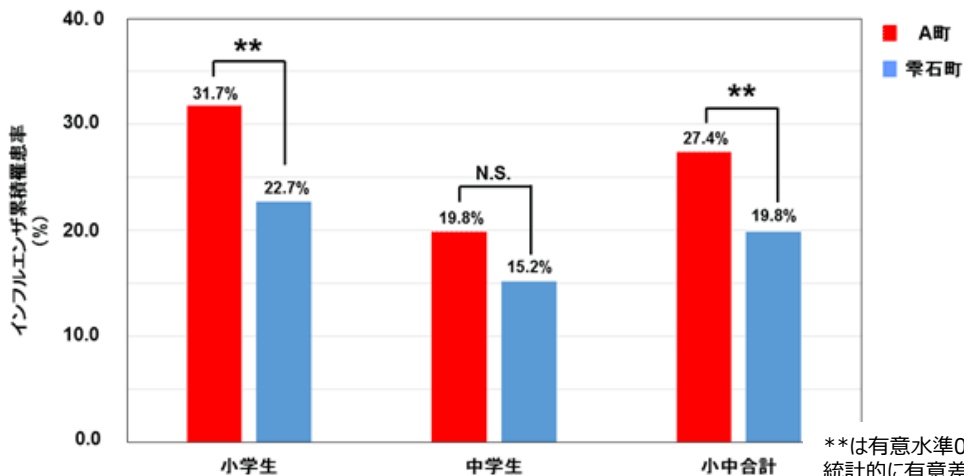
飲用期間においてA町の最大罹患率は8.7%に対し、羣石町では5.9%と2.8%低値であった。

中学生の週別インフルエンザ罹患率の推移(2014~2015年)



飲用期間においてA市の最大罹患率は9.9%に対し、羣石町では4.0%と5.9%低値であった。

小中学生のインフルエンザ累積罹患率(2015年1月~3月)



飲用期間のA町の小中学生におけるインフルエンザ累積罹患率は27.4%に対し、羣石町では19.8%と有意に低値であった。

**は有意水準0.01で統計的に有意差あり